



女船頭さん

舟に乗って自然と食を楽しもう

頭さんが「これが昔からのさつば舟の格好だ」と笑う。古くから水郷として栄えた利根川一帯は、細かい水路がいくつも現存している。

今回、さつば舟に乗ったこの地域は、利根川と



さつば舟からの景色

利根川舟運・地域づくり協議会主催（水郷佐原観光協会運営）の「ぐるっと水郷舟遊び」に参加し、舟の楽しさを体験してみた。

真つ赤な前掛けに紺のもんぺ。さらにぼつち笠に手ぬぐいをまいた女船

さつば舟でゆく水郷佐原



利根川河口堰を体験し銚子に到着

「利根川舟運・地域づくり協議会」の取り組み

多くの歴史ある建物や自然、食など、観光資源が豊富な千葉県。中でも銚子市から我孫子市までにわたる利根川流域は、江戸時代から舟運が栄えていた。現在、利根川（霞ヶ浦、印旛沼、手賀沼）流域の千葉県・茨城県19市町村により設立された利根川舟運・地域づくり協議会を中心に舟を使っ

て、地域文化や観光資源を活性化させるべく、様々な取り組みが行われている。「川に親しむ機会を持つてもらう」と、利根川河口堰体験と食べ歩きまちな歩きツアー（銚子市、東庄町）や、あやめ祭り（香取市）、とりで利根川大花火、こうさき河川敷祭り、龍角寺1300年祭（采町）、東国三社（香取神宮・鹿島神宮・息栖神社）詣で（香取市ほか）などの行事と連動し、舟を使ったモニタリングツアーも行われた。11月21日(土)には、小見川ハイキング&黒部川クルーズモニタリングツアーも予定されている。また、スポーツ振興もかねて、小学生のカヌー体験なども行われている。「舟のある風景・川のある風景」と題された移動絵画展も香取市・銚子市・潮来市・



銚子の歴史にふれるまち歩きツアー（飯沼観音）

飯沼観音境内の水準原標石～水の高さを測量する原点となる点で、現在の河川計画における基準高になっている。明治時代、オランダ人技師リンドが設置した。



河川リポーター 佐藤美恵子さん

取手市の4市で開催され、人気を集めていた。

舟運の活性化をはかるために同協議会が「かわまちづくり支援事業」を申請し、これまで利根川下流域には香取市と取手市などにしかなかった船着場が増設されることとなった。今年度、銚子や我孫子などの計5ヶ所の設置が予定されており、これは利根川を管理する利根川下流河川事務所整備を進めている。

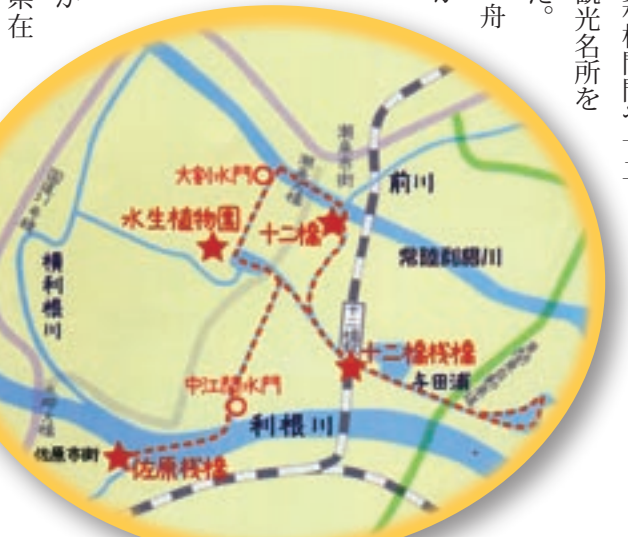


十二橋めぐり



横利根閘門

住ながら、さつば舟に乗ったのははじめて。これまで観光という視点から利根川を考えたことはなかったが、だいたいイメージが変わった」と語った。



利根川をはじめとする観光資源や、歴史的な建物として銚子港などをはじめとする食の資源。県内や首都圏はもとより、成田空港にも近いという立地から、国内外からの観光客誘致も視野に入れている。現在、「地産地消」という言葉が注目を浴びているが、漁業、農業、林業など、多様な産業分野で資源を抱える千葉県利根川流域こそ、千葉県独自の取り組みである地域密着型の生活スタイル「千産千消」を推進していけるはず。実際に利根川が生

利根川舟運・地域づくり協議会

取手市役所 建設部
水とみどりの課 舟運交流推進室
TEL：0297-74-2141（内線1560）
FAX：0297-72-2682
<http://www.tonegawa-ship.jp/index.html>

定点観測 水の郷さわら②



香取市佐原広域交流拠点「水の郷さわら」の水辺交流センター周辺。道の駅や防災施設などを整備中。建物としての姿が見えてきた。

歴史的観光資源と貴重な自然風景を活かした観光振興

利根川をはじめとする観光資源や、歴史的な建物として銚子港などをはじめとする食の資源。県内や首都圏はもとより、成田空港にも近いという立地から、国内外からの観光客誘致も視野に入れている。現在、「地産地消」という言葉が注目を浴びているが、漁業、農業、林業など、多様な産業分野で資源を抱える千葉県利根川流域こそ、千葉県独自の取り組みである地域密着型の生活スタイル「千産千消」を推進していけるはず。実際に利根川が生

み出す資源や幸を体感するために、まずはふらりと利根川の舟運観光を楽しむところから始めませんか？

平成8年には、文化庁から「重要伝統的建造物群保存地区」の指定を受けた小野川周辺には、さまざまな名所が残されている。天保3年に建てられ、160年以上何手も手を加えていない商店や、旧三菱銀行の「三菱館」。伊能忠敬の旧宅など、歴史的価値の高い建物が、いくつも現存している。「これまで一度も来たことはなかったが、千葉県内にこんな場所があったとは知らなかった（ポートクイン・渡辺智美さん）」まるで時代劇の中に入り込んだのではないかと感じてしまっ



小野川沿いの町並みとさつば舟



ジャージャー橋

香取市の佐原市街地を流れる小野川の樋橋周辺は、いつ訪れても人が絶えない。しばらく橋を眺めていると、歓声とともに、橋から大量の水が流れ落ちる。佐原の名物のひとつ「ジャージャー橋」だ。午前9時から17時まで30分おきに落水が起るこの橋は、江戸時代の初期、佐原村のかんがい用水を東岸から西岸に送るために架けられたもの。当時を象徴する文化遺産のひとつであり、小野川のさつば舟運航とともに佐原の貴重な観光資源にもなっている。

河川リポーター



渡邊さん 永島さん 本田さん

国土交通省 関東地方整備局 利根川下流河川事務所 調査課0478-52-6366 <http://www.ktr.mlit.go.jp/tonage/>

千葉県では下記の意見募集をおこないます。

- 川船を利用した日帰りツアーに参加したいですか？
A はい B いいえ
- 川船を利用した日帰りツアーに参加する場合、何をしたいですか？（複数可）
A 見る B 食べる C 遊ぶ D 学ぶ
具体的な内容があればお聞かせ下さい。
- 川船を利用した日帰りツアーの参加料金はいくら位が適当だと思いますか？
円（昼食含む）
船上でのサービスについて期待するものがあれば、お聞かせ下さい。

住所、氏名、電話番号をご記入の上、はがき、FAX、またはEメールにて下記までお送りください（11月末日必着）。
〒104-0061 東京都中央区銀座4-10-12 銀座サマリヤビル4F
千葉日報社11/15アンケート係
FAX 03-3545-1450 Eメール tokyo@chibanippo.co.jp
ご応募いただいた方の中から抽選で10名の方にクオカード3000円分をお送りいたします。
発表は発送をもって代えさせていただきます。